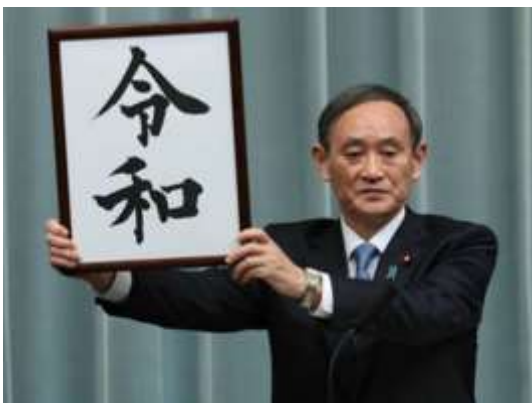


新元号『令和 (れいわ)』出典「万葉集」 5 月 1 日施行



政府は 1 日、臨時閣議を開き「平成」に代わる新元号を「令和 (れいわ)」と決定した。4 月 30 日に退位される天皇陛下が改元政令に署名、公布された。皇太子さまが新天皇に即位する 5 月 1 日午前零時に施行される。皇位継承前の新元号公表は、憲政史上初。出典は現存する日本最古の歌集「万葉集」で、中国古典でなく国書 (日本古典) から採用したのは確認できる限り、初めて。閣議決定後、宮内庁を通じて天皇陛下と皇太子さまに新元号を報告した。

「令和」は「大化」(645 年) から数えて 248 番目で、1979 年制定の元号法に基づく元号としては「平成」に続き 2 例目。改元は、天皇一代に一つの元号とする「一世一元」制が採用された明治以降、天皇逝去に伴う皇位継承時に行われてきた。今回は退位特例法に基づき、逝去によらない改元となる。

政府関係者によると、1 日の選定手続きに示した原案には、日中双方の古典を典拠とした案がそれぞれ複数あった。アルファベットの頭文字で表示した際の「明治、大正、昭和、平成」との混同を避けるため、事前に「M、T、S、H」が頭文字となる案は除いた。「令和」の頭文字は R。

宮内庁書陵部委員も務める今西祐一郎・九州大名誉教授は「これまで元号は漢籍を出典としてきたが、今回日本の古典である万葉集が出典となり、日本の文化を重視する新たな流れになる」と評価。「日本の先人の書物から良い文字を選んだ。今後、元号の出典が和書になっていく第 1 例となるのではないかと話す。また、安倍首相は、新元号が「令和」に決定した経緯について「梅の花のように、一人一人の日本人が明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる、そうした日本でありたいという願いをこめ、令和に決定した」と話した。

【出典】  
「万葉集」巻五、梅花の歌三十二首并せて序  
【引用文】  
初春令月、氣淑風和、梅披鏡前之粉、蘭薫  
後之香  
【書き下し文】  
初春の令月にして、氣淑く風和き、梅は鏡前  
の粉を披き、蘭は環後の香を薫らす。  
【現代語訳】  
初春のめでたい月に、天気も良く風は和ら  
ぎ、梅はおしろいのように白い花を開き、蘭は  
香のように薫っている。

新元号のポイント

- 新元号は「令和(れいわ)」。248番目の元号
- 皇太子さまが新天皇に即位される5月1日に施行
- 出典は万葉集。日本古典からの採用は確認できる限り初めて
- 意味は「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」
- 原案は六つと政権幹部。考案者は非公表
- 安倍晋三首相は「広く国民に受け入れられ、日本人の生活の中に根差していくことを願う」